

信州 ESD コンソーシアム 令和3年度成果発表&交流会

～実践記録～

1. 学校名：飯田市立上村小学校

2. 対象：3年生5名 4年生3名 5年生2名 6年生1名 児童11名
(学年・人数)

3. 活動内容

(1) 活動名 「上村のためにできることを考え、行動しよう」

(2) 活動の目標

昨年度、様々な自然体験活動を通して上村の良さに触れた子どもたちが、上村の人口減少等について課題をもち、上村のために自分たちができることを主体的に考え、活動することを通して、持続可能な地域づくりへ参画しようとする態度や、地域を大切にしようとする心情を育てる。

(3) ESDの視点、育成する資質・能力

①構成概念

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 多様性 (多種多様な現象が起きていること) | <input type="checkbox"/> 公平性 (一人ひとりを大切に) |
| <input checked="" type="checkbox"/> 相互性 (関わりあっている) | <input checked="" type="checkbox"/> 連携性 (互いに連携・協力すること) |
| <input type="checkbox"/> 有限性 (限りがある) | <input checked="" type="checkbox"/> 責任制 (責任を持って) |
| <input type="checkbox"/> その他 () | |

②育成する資質・能力

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 批判的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 他者と協力する力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 未来像を予測して計画を立てる力 | <input type="checkbox"/> つながりを尊重する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 多面的・総合的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 進んで参加する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーションを行う力 | |

(4) 関連するSDGs

- 11 住み続けられるまちづくりを
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう



(5) 活動の内容

- ①上村の人口減少等の課題について知り、どんな上村になってほしいのか願いをもつ。
- ②上村のために自分たちにはどんなことができるのか考え、計画を立てる。



- ③計画を立てたことを実際に行う。(KGC 自然塾キャンプにて学校で栽培した椎茸と下栗芋の販売、ごみ拾い活動、地域の人や観光客に歌を聞かせる、花の栽培等)



- ④活動を振り返り新たな願いをもつ。(もっとたくさんの人に上村の良さを知ってほしい。)
⑤上村PR 大作戦の計画を立てる。(どんなことを宣伝するのか、どこで宣伝するのか等)
⑥市街地の公園で上村の宣伝活動を行う。(コロナのため延期)
⑦活動の振り返り (次年度に向けて)

4. 活動の成果

上村のために自分たちができることを考える場面では、一人一人がしっかりと願いをもち、意欲的に語ることができていた。これらの語りの背景には、日頃から関わってくださっている地域の方々との触れ合いや、川遊びや山散策など、様々な自然体験活動を通して上村の良さや魅力を十分に感じ取っていた経験があるからだと思った。

また、夏休みに行ったキャンプでは学校で栽培した下栗芋と椎茸の販売、観光客の方に歌の発表をした。県外の観光客の方と会話することで、改めて上村の良さを再確認している子がいた。これらの経験から、当初は上村をウェブサイトやYouTubeで宣伝したいと思っていた子どもたちが、飯田の街に行って直接自分たちの声で上村を宣伝したいと考えが変わるきっかけになっていた。

上村の良さを味わいながら、実際に上村のためにできることを考え行動することで、さらに上村への愛着が深まったように感じる。さらに、「これからも自分たちの手で上村のためにできることを考えて行動していきたい」と持続可能な上村のために意欲を高めた。

5. 指導方法・体制の工夫

- ・地元の野菜(下栗芋, 椎茸)の栽培
- ・上村自治振興センターの方々, かみむらっ子応援団の方々, 野菜の栽培を教えてください地域の協力の協力